

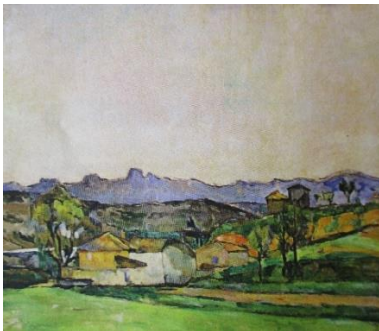
印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション

Bunkamura ザ・ミュージアム 2019.04.27～06.30 福岡・松山巡回

「ウィリアム・バレル」(1861～1958)は、イギリス屈指の港湾都市グラスゴー生まれで、船舶の売買で巨万の富をなし「海運王」と呼ばれた。

彼は古今東西のさまざまな作品を収集し、とりわけフランス美術に目がなくて多数の作品を購入して数千点に及ぶ美術品を、郊外にコレクション作品を展示することと、英国外には貸し出さないことを条件にして「バレル・コレクション館」を建造して市に寄贈している。今回、同館が数年間の大規模改修工事のため、主なコレクションされた作品が貸し出されて日本各地で巡回展示される展覧会が開催されている。

本展は、彼が収集した近代絵画を中心に構成されて、出品作 80 点の内「76 点」が初公開されるため、稀な作品に出合える貴重な機会である。



ポール・セザンヌ 《エトワール山稜とビロン・デュ・ロワ橋》 左

南仏出身の画伯は、この故郷の山容を好んで何度も描いている。

ウジェーヌ・ブータン 《ドーヴィル、波止場》 中

港、埠頭、帆船を描いた「海景画家」と言われた作品の一作品。

エドガー・ドガ 《リハーサル》 右

バレエや楽屋風景、舞台袖といった作品が多いのが特徴。